

鳥取県立鳥取看護専門学校における学校運営評価(自己評価)の結果

H26. 8月実施

※評価尺度:5 よい 4ややよい 3普通 2やや不十分 1不十分

内容	評価項目	評価結果	評価の根拠	今後の課題
① 学校経営	1 学校のビジョン及びそれを実現するための目標を策定しており、その目標が教職員に理解され、教職員の提案を活かしているか。	3	・学校の教育理念・教育目的・教育目標を達成するために、組織ミッションを毎年度作成している ・単年度組織ミッションは、職員会議で、年2回評価し、職員が問題や課題を共有すると共に改善策の検討を実施している ・組織ミッションは、H20年度から鳥取県ホームページに、H25年度から学校ホームページに掲載している また、組織ミッションは、数値目標としており、客観的な評価ができるように工夫している	・学校の将来計画として、施設を建築してから、40年経過していることから、教育環境の充実(施設・設備整備計画)について、検討する必要がある
	2 目標に対する評価を実施し、その結果を教職員に周知するとともに、次年度の目標につなげているか。	3	・単年度組織ミッションを基に評価を実施している ・組織ミッションの評価は、職員会議で行い、課題整理や改善策を検討している また、評価結果は、県ホームページに達成度(数値目標)として掲載している ・組織ミッションや教育目標等の評価は、10月、3月に実施し、次年度の計画に反映している	・今後も中間評価、最終評価を実施する際には、教務会や教務主任会で話し合い、次年度に改善できる具体策を検討する
	3 学校評価を組織的に実施し、評価結果を教職員に周知するとともに、外部にも公表しているか。また、評価結果をもとに改善計画を策定しているか。	3	・学校評価のうち、授業評価(授業・演習・実習)については、かねてより取組みを実施している ・学校運営評価は、H26年度より開始した ・学校運営評価、授業評価(講義・演習・実習)の結果は、H26年9月にホームページに公表する予定である ・毎年度、外部関係者(県監査委員会・県会議員等)に、教育内容や運営経費等の定期監査を受けている また、年に2回程度、学校運営会議(県主管課・実習病院等の職員)で学校の問題や課題を協議している	・学校評価の継続実施が必要である ・授業評価(講義・演習・実習)を今年度に検討した結果、教員の指導方法の統一を図るために、事前デモ・ストレーションを取り入れるなど、指導方法の工夫を図る必要がある
	4 特色ある学校づくりを進めるために、教育内容等の充実に努めているか。	4	・講義(統合分野 看護の統合と実践Ⅰ・Ⅱ(各30時間))については、特徴的な教育方法(PBLテュートリアル教育)を取入れて、特色のある学校づくりに努めている ・PBLテュートリアル教育は、H25年度に、県外先進校への視察、情報共有を実施し、課題整理や記録用紙等の改善を行った ・また、課題整理を踏まえ、H26年度には、講義への教員配置を手厚く行うと共にテューターの役割を学ぶため、新たに赴任した教員に対して、先進地視察を計画している	・PBLテュートリアル教育の充実のため、H27年3月に外部講師を招き、研修会の開催を予定している ・本校の教育理念にある「主体的に学習する姿勢を育む」ために、学生自らが考えるクラス目標を掲げて、クラス運営を行う必要がある
	5 校長のリーダーシップのもと、職員が一致協力し、組織的・機動的な学校運営を行っているか。	4	・教務会を定期的に実施すると共に教務主任会を必要時に実施し、情報共有し、学校運営上の課題や重要事項を検討している ・毎年度、引継書を作成し、各種業務や教科の引継ぎをスムーズにするよう工夫している ・教員の実習配置や授業担当科目は、教員の経験を踏まえた配置としている ・平成26年度は、実習要項の検討を実施し、各実習の目的・目標と評価との整合性を図ることができた。平成27年度からは、実習要項を新バージョンとして活用する	
② 教育課程・教育活動	6 教育目標に、養成する看護師が卒業時において持つべき資質を明示しているとともに、卒業時の到達状況を分析しているか。	3	・期待される卒業生像は、履修概要に記載している ・卒業時の到達目標の記載もある。しかし、卒業時の到達状況の客観的評価はできていない	・卒業時の到達状況の把握が必要である 他校の実態を把握し、方策を検討する
	7 教育課程は、教育理念・教育目標と一貫性のある内容になっているか。	3	・教育課程は、H21年度 新カリキュラム作成時に検討した。毎年の履修概要作成を通して、授業時間数や講師の見直しを実施している ・教育内容については、領域担当者が見直し、教務会で共有している ・H25.10.4 中国四国厚生局指導調査において、実習目的・目標と実習評価の整合性を図るように指導を受け、H27年度から改正できるようH26年8月に実習要項の見直しを実施した	・実習目的・目標と実習評価が一致するようH27年度実習要項の改正が必要である
	8 定期的に教育課程の評価を組織的に行い、時代の要請、変化にあったものに修正しているか。	3	・教育課程は、H21年度から、新カリキュラムとした 教育課程は、教育理念に表現されたキーワードと整合性がとれたものになっている ・専任教員が担当する講義・演習・実習は、毎年度、各領域毎に評価し、講義・演習・実習の内容に反映させている また、H25年度は、看護学関連の科目で、重複や刷新が必要な科目(看護管理・臨床看護総論等)の見直しを実施した しかし、基礎分野・専門基礎分野については、外部講師に依頼しているため、抜本的な見直しができていない ・H23年度に新カリキュラムの学生を輩出したが、到達度状況の把握やカリキュラムの妥当性の評価ができていない	・教育課程の評価が必要である
	9 シラバス(授業計画書)は、学生が授業内容を理解しやすく、授業内容と一致しているか。	3	・シラバスは、より見やすい様式になるようH25年度に様式を統一し、改良した。その際、事前課題やサブテキストを具体的に記載することとした。 ・授業科目間の調整は、外部講師を含めてできる限り調整するよう努力している ・各専任教員は、講義の最初の時間に、シラバスを活用し、講義の組み立てや目的などの系統的な説明を実施し、学生にシラバス活用の意識づけをしている	・学生のシラバスの活用状況の把握が必要である ・シラバスに先輩からの声も入ると、学生が興味を引くものとなると思われる(各教科毎に「7 先輩からの声」を記載する) ・外部講師にもシラバス「6 学生へのメッセージ」を丁寧に記載していただく
	10 授業の一貫性を確保するため、1科目の授業担当者数を最小限にするとともに、担当者間の連携がとれているか。	3	・専門分野については、外部講師が複数で教授している科目もあるため、各科目の担当教員が教育内容の調整を図っている	・1科目の授業担当者を最小限とする努力が必要である
	11 効果的な授業運営を図るために、適切に時間割を調整しているか。	3	・学習の順序性を考慮して、時間割を作成している 実習との関連を含めて講義の計画を立案したり、学生の負担を考え、複数の演習が重ならないように配慮したり、学生のレディネスに合わせて、演習を研修として組み入れたりと、時間割の作成に配慮している ・時間割は、月末に配布することとなるが、認定試験や学校行事等、重要な計画は、早期に学生掲示板に記入し、周知している	・時間割の作成が早期となるよう、外部講師等との調整を今後も努力する

内 容	評 価 項 目	評価結果	評価の根拠	今後の課題
② 教 育 課 程 ・ 教 育 活 動	12 授業内容や指導方法が学生レベルにあうよう工夫・改善しているか。	3	<ul style="list-style-type: none"> ・年度毎に重点授業を定め、授業内容の検討を実施している。H25年度は、基礎看護学・PBL教育について、担当者が授業案を作成し、教務会で協議し、改善策の検討を行った 平成26年度、PBL教育は、授業終了後の担当者ミーティングを重ねると共にグループ発表会に教員全員が参加し、授業の達成度を確認し、意見交換を図っている ・H26年度には、H25年度実施の授業評価結果(学生アンケート)の分析を実施し、改善点の検討を実施している 	<ul style="list-style-type: none"> ・授業案の情報共有と検討が必要であるため、平成26年度は授業研究を実施する ・授業評価の分析結果を基に、必要な改善を行う
	13 未修了科目の原因分析を教員側と学生側とで実施し、対応策を講じているか。	4	<ul style="list-style-type: none"> ・学習面で支援が必要な学生の把握を行い、必要時にその原因について、学生自らが振り返ることができるような関わりを意識して、学生指導を実施している ・未修了科目の履修の方法など、学生や保護者を交えて、説明している また、「再履修願」を提出してもらい、計画的な履修が可能となるよう意識付けを図っている ・出席状況の確認をガイダンス担当者が行い、遅刻や欠席の多い学生への指導を行っている 	
	14 実習目標に沿った病棟の選択及び、学習環境・指導体制が整っているか。	4	<ul style="list-style-type: none"> ・現在、実習を依頼している病院は4病院、訪問看護ステーションなどの施設は、40施設あるが、丁寧な実習指導をしていただいている 実習施設は多岐にわたるが、どの施設も快く受けさせていただいている、現在のところ、実習場所の確保に困ることはない ・実習では、学生の学習進度や理解度に合わせた指導をしていただいている また、実習の開始前・終了後に指導者会を開催し、学生レベルの向上のため、検討を実施している ・実習環境は、様々で有り、学生カンファレンスルームのないところもある。 	<ul style="list-style-type: none"> ・問題が生じたときに、迅速に対応できるよう、日頃から学校と実習施設指導者との連携強化が必要である
	15 学生に修了認定のための評価基準と方法を公表しており、かつ、評価について公平性・妥当性が保たれているか。	4	<ul style="list-style-type: none"> ・評価基準は、学生便覧などに掲載し、実習オリエンテーションで具体的に説明している ・実習評価は、教員と実習指導者で評価するよう努めている ・演習技術試験の結果は、学生に口頭で説明し、評価の根拠も伝えて、返却している ・講義・演習・実習の評価基準については、毎年度見直しを実施している 	
	16 実習における患者への倫理的配慮に関するガイドラインを作成し、患者等の同意を得た上で、実施しているか。	4	<ul style="list-style-type: none"> ・ガイドラインを作成し、実習オリエンテーションにおいても説明を行っている。また、学生便覧や実習要領に掲載している ・学生の受持ちについて、患者から、文書での同意を得ている 	
	17 実習において、学生が関係したインシデント等を把握・分析しているとともに、改善策を講じているか。	4	<ul style="list-style-type: none"> ・インシデントの発生時には、事故報告ルートに沿って、指導者や実習責任者等への報告は必ず実施している。 ・改善策の検討については、指導者と学生、教員と学生の二者の場合が多い。 ・領域別実習中のカンファレンスで、事故防止についてのテーマを取り上げ、教員・指導者・学生の三者で、話合うこともある ・必要時、他の学生への情報提供や注意喚起を実施しており、予防策や医療安全の考え方を再確認している 	
	18 実習指導者と教員の役割を明確にしているとともに、実習指導者と教員の協働体制を整えているか。	4	<ul style="list-style-type: none"> ・実習施設と定期的に指導者会を開催し、実習状況の報告や実習内容の依頼を行っている ・受持ち患者の選定について、指導者と事前の打合せを行っている ・実習指導者と教員の役割は、文章化されており、実習要領に記載している ・日々の指導場面において、教員と臨床指導者が情報共有すると共に評価も共同でつけている 	
	19 学生による授業評価を実施し、授業の改善に努めているか。	3	<ul style="list-style-type: none"> ・授業評価(講義・演習)は、H24年度までは、専任教員各自が学生アンケートを実施し、結果を分析し、教授方法の改善に努めていた。 H25年度からは、学校として統一したアンケート様式で評価を開始し、H26年8月に、H25年度実績をとりまとめ、学校としての改善点を検討した。 ・外部の非常勤講師の授業評価は、未実施である 中には、感想を書かせておられる講師もあるが、すべての内容を教員が把握できていない ・授業評価(実習評価)についても、H24年度までは、担当領域独自のアンケートを使用して評価を実施していたが、H26年度からは、学校として統一したアンケート様式で評価を開始した。 また、実習評価については、学生アンケート結果をまとめて、指導者会で検討していただいている 	<ul style="list-style-type: none"> ・外部の非常勤講師も授業評価をしていただくかの検討が必要である

内 容	評 価 項 目	評価結果	評価の根拠	今後の課題
③ 入 学 ・ 卒 業 対 策	20 より多くの応募者を確保することに努めているか。	5	<ul style="list-style-type: none"> ・オープンキャンパスの実施や県政よりへの掲載等を行い、積極的にPRしている ・H26年度は「鳥取地域 地域生活情報誌」に当校学生写真が掲載され、旧鳥取市全域に当校の存在をPRできた ・H26年度新たに、学生募集用ポスターを作成し、県内高等学校、実習施設等に掲示を依頼した。 また、ホームページ、学校案内を刷新し、若い年代にも魅力を持ってもらえるような広報となるよう工夫した ・毎年7～8月にかけて東部地区 推薦指定校の学校訪問を実施している ・高等学校への訪問時に在校生の近況を報告し、情報交換を行っている ・県実施の就職ガイダンス(進路相談)に参加し、看護師を目指す高校生・保護者等の進学相談を実施し、本校のPRを実施した 	<ul style="list-style-type: none"> ・オープンキャンパスの工夫 回数を増やすか、高校生のアンケートに昨年度と同じ内容だったとの声も有り、内容を変更するかの検討が必要である ・県内定着が期待される県外高等学校へのPRが必要である 県内定着が期待できる兵庫県北部や島根県東部の高等学校へ学生募集依頼文を送付し、学生の確保を図る
	21 国試対策に個々の学生にあった指導・援助を実施するなど、教職員一丸となって取り組んでいるか。	4	<ul style="list-style-type: none"> ・国家試験対策の担当者を配置している ・H26年度は、解剖学・社会保障制度・病態治療学の特別講義を計画している 教員は、意図的に、授業の中で国家試験関連問題を解かせており、知識の定着に努めている また、外部講師への講義依頼の際に、国家試験問題を情報提供する等、国家試験を視野に入れた教育内容としている ・模擬試験結果を分析して、成績不良者には個人指導を実施している ・不合格者があれば、模擬試験の情報提供や受験手続の指導を実施している ・H26年度から、低学年からの学習を促すため、1年生は夏季休暇時の課題、2年生は学生担当が中心となり、毎週「日めくりドリル」を実施している。また、1年生から国試オリエンテーションを複数回実施し、学習の仕方を説明している ・国家試験の合格率 H23年度 100% H24年度 95.6% H25年度 97.6% ・教員の力量形成のため、県外研修(国家試験セミナー)に2～3回／年、複数の教員を派遣し、対策強化に努めている ・H17年度より実施している「保護者会」において、学習支援への協力を依頼している 	<ul style="list-style-type: none"> ・国家試験に全員合格できるよう成績不良者への個別指導の更なる強化が必要である
	22 算の高い、適性を備えた卒業生を多く輩出するための努力を行っているか。	4	<ul style="list-style-type: none"> ・年2回程度、定例の面談を持ち、それに加えて、必要時に面談をもって学習支援を行っている ・新入生にカウンセリングについての講義を実施し、カウンセリングの意義について、動機付けを行っている ・心身に不調をきたす学生は、必要時に、学校カウンセラーとの面談を勧めている ・H26年度入学生から、入学前学習(数学・国語・理科 プレトレーニング)を課し、入学後4月中旬に確認テストを実施した。その結果を分析し、日頃の学習指導に活かしている ・演習(技術試験 8項目)については、認定試験に合格する水準に達するまで、担当制で、丁寧な個別指導を実施している 	
	23 卒業生の県内就職率を高めるよう努めているか。	4	<ul style="list-style-type: none"> ・低学年にも県主催就職ガイダンスのPRを実施しているが、参加者は少ない 一方、各施設が実施するオープンホスピタルの積極的な参加勧奨も実施しており、多くの学生が参加している ・鳥取県修学資金のPRを新入生のオリエンテーションに組み込み、貸付を勧奨 貸付者は年々増加している 【鳥取県修学資金貸付者率】 H24年度実績 58人／129人 44. 9% H25年度実績 73人／119人 61. 3% H26年度実績 88人／116人 75. 8% ・県内就職率を促進するため、1年生からオープンホスピタルに参加するよう勧奨している 【鳥取県内就職者率(進学者・県外者を除く)】 H23年度実績 21人／27人 77. 7% H24年度実績 35人／40人 87. 5% H25年度実績 31人／36人 86. 1% ・既卒者や中途退職者のうち、学校に相談のあった卒業生に対して、親身に相談にのっている 	<ul style="list-style-type: none"> ・当校卒業生の中でも、離職する者がある。その実態を専任教員間で、共通認識しておく必要がある ・ここ2年、県内者が県外就職する者が5名程度あり、鳥取県修学資金貸付けをさらにPRする必要がある

内 容	評 価 項 目	評価結果	評価の根拠	今後の課題
④ 学 生 生 活 へ の 支 援	24 学業継続のための支援体制が整っているか。	5	<ul style="list-style-type: none"> ・入学早期にカウンセリングの活用について、本校カウンセラーが講義を実施している ・カウンセリングの日程は、事前に白板に掲示している ・休学者等には、本人及び保護者に定期的に連絡を取り、丁寧な復学支援を行っている ・感染症対策として、入学時に、抗体価検査(麻しん・風しん・流行性耳下腺炎・B型肝炎・結核)を実施し、抗体価のない学生に対しては、予防接種を積極的に勧奨している ・また、インフルエンザについては、毎年、11月頃に全学生・職員に対して、予防接種を勧奨している ・H23年4月1日から 敷地内禁煙とした(中央病院の敷地内禁煙と併せて実施) 	<ul style="list-style-type: none"> ・施設の関係で、カウンセリング会場が職員室前であるため、学生が入室しにくい雰囲気がある
	25 進学、就職などの進路に関して学生の相談に十分応じているか。	4	<ul style="list-style-type: none"> ・進路希望のとりまとめを2年生の3月に、個別面談を3年生早期に実施している ・また、就職意向調査をもとに、関連する就職情報を個別に提供している ・就職施設から郵送された情報は、図書室の指定場所に置いている ・また、ポスター等は、教室や廊下に掲示している ・本校卒業生が来校して、先輩看護師と学生との「語る会」を毎年実施し、看護師の仕事や職場の様子等を聞く機会を設けている ・就職試験(面接)に自信を持って臨むために、3年生4月の早期に、講演「面接試験の秘策を学ぼう」を実施し、面接の心得、服装、身だしなみ、言葉づかい、面接でのNG回答等の知識を得る機会を設けている 	
	26 卒業生への支援を継続的に行っているか。	3	<ul style="list-style-type: none"> ・卒業生の来校がある際には、その都度教員が対応している ・学校として、卒業生への支援事業は実施していないが、相談があれば、対応している ・卒業生に対して、図書室や情報科学室の利用を許可しており、看護研究の側面的支援を行っている 	
	27 サークル活動やボランティア活動など、学生の自主的な活動を支援しているか。	3	<ul style="list-style-type: none"> ・学生サークル活動を含めた自治会担当は、教員の担当制をとっており、指導体制は整っている ・サークル活動は活動実態の把握のため、H26年度より、届出制とした ・H26. 7月現在、3団体が活動している ・サークル活動団体の交流会は実施していない 	<ul style="list-style-type: none"> ・H27年度から、後援会より、サークル活動への助成金を出していただくよう後援会に依頼する予定である
⑤ 管 理 運 営 財 政	28 予算計画、年間事業計画を策定し、適正な予算の執行・進行管理を行っているか。	4	<ul style="list-style-type: none"> ・次年度の予算要求(報償費・旅費・実習施設謝金・図書備品・教材備品・教員研修旅費など)を前年度に実施し、要求した予算は確保できている ・年度途中で必要となった営繕経費等のうち、学校運営費で対応できない場合は、県関係課に相談し、執行できるように工夫している ・節電やコピー用紙裏面利用などを推進しており、経費削減の努力をしている 	
	29 学生や教職員等の人権や個人情報の保護について十分な配慮がなされているか。また、学生、教職員に対しそれらの徹底を図っているか。	4	<ul style="list-style-type: none"> ・H25年度に個人情報保護指針、個人情報保護取扱い規定を作成した ・また、実習前には幾度となく、個人情報保護の必要性等について、学生に説明している ・実習記録は、職員室ロッカー(鍵付)に保管しているが、手狭になっている 	<ul style="list-style-type: none"> ・H26年度に新規作成した個人情報保護指針、個人情報保護取扱い規定をH27年度版履修概要に掲載する必要がある ・実習記録物の収納のため、教務室に鍵付きロッカーを増設する必要がある
	30 災害など非常時の危機管理体制が整備されているか。また、防犯・交通安全意識の向上に努めているか。	3	<ul style="list-style-type: none"> ・防災マニュアル(H18年8月作成)、消防計画(H18年4月)などの整備は行っており、毎年見直しをして使用している ・危機管理マニュアルは、学校独自の物は作成していないが、県作成の物を使用している ・防災訓練は、毎年1回(4月)実施している ・交通安全については、H26. 5月に警察職員による講演を実施しており、交通安全週間の際にはチラシやポスターを掲示し、学生・職員に注意を呼びかけている ・毎年、4月に職員連絡網を作成し、連絡体制を明らかにしている ・防犯対策として、H26年度に、さすまた、カラーボールの設置を行った ・不審者に対する対策としては、本校玄関に養護学校警備員が、8:00～16:00まで、常駐しており、抑止力となっている ・不審者に対する対策として、学生・職員が、護身術を学ぶ研修会を9月に実施する 	
	31 学校運営に学生の意見が反映されるように努めているか。	3	<ul style="list-style-type: none"> ・意見箱の設置はしていない ・学校運営について、学生から意見を聞く場は設けていないが、学生は、要望等を気軽に申し出ており、把握した要望や意見等については、迅速な対応を心がけている ・H26年3月に、図書室に関する学生アンケートを実施した ・その中で、図書購入希望や図書室利用時間等の希望について対応した。しかし、個人学習机の設置等、施設改修が必要な要望については、図書室が狭隘で予算措置も困難なため、対応できていない ・H25年4月に、卒業式服装について、学生からの要望が有り、自治会役員と相談の上、学生アンケートを実施すると共に後援会の承諾を得て、自由な服装に変更した。その対応を学生は、大変喜んでいる ・H26年度は、学校川柳を募集し、間接的に学生の声を把握するよう努める ・H17年度から保護者の要望により、「保護者会(1回／年)」を実施している ・開催にあたり、出欠票に意見や要望記載欄を設け、意見聴取している。なお、会の進行は、後援会役員の協力を得て、学年懇談会を運営しており、意見が出しやすい雰囲気づくりを図っている ・また、保護者会で得た保護者からの意見や要望は、学校の問題として取り上げ、迅速に誠意を持って対応している 	<ul style="list-style-type: none"> ・学習環境や学習支援体制に関する学生アンケートの実施を9月に予定している

内 容	評 価 項 目	評価結果	評価の根拠	今後の課題
⑥ 施 設 設 備	32 校舎等は耐震性に優れ、安全が確保されているとともにバリアフリーなど障害者の利用に配慮された構造になっているか。	1	・耐震診断はクリアできている ・校舎が2階にあるが、エレベーターがない(校内に段差はない) ・トイレの入口は狭く、車椅子で入る事は困難。車椅子に対応したトイレの設置がない	・車椅子で入れるトイレの設置等、障害者の利用に配慮した施設に改修することが必要である
	33 教育目標達成に必要な施設設備及び教育内容に相応しい教材が整っているか。	3	・H25年度は、研修室オーディオ装置、情報処理室パソコンの新調、冷暖房完備等、積極的に整備を行った ・教育教材(モデル人形・模型等)は、計画的に予算要求して、順次整備している ・教室以外に自己学習を行う部屋の余裕がなく、グループワークや自己学習等、学生が自主的に学習するための設備となっていない	
	34 学生のための福利厚生施設は整っているか。また、学生の施設利用に当たっては学生の意見が反映されるとともに積極的に活用されているか。	1	・学生ラウンジなどの福利厚生施設がない ・体育館は、養護学校から借用しており、学生が自由にスポーツをする場所がない ・休暇中の施設利用は、可能としている	・学生のためのラウンジや自治会室等の福利厚生設備が必要である
	35 図書室は利用しやすく学生に十分活用されているか。	3	・図書整理は、学生の協力のもとに、年3回行っている ・雑誌27誌、本5、223冊と国の指定基準はクリアできているが、古書が多い(ここ10年に購入した本は、1, 486冊と3割に満たない) ・司書等の管理者はいないが、司書の資格を有したボランティア(本校卒業生)が積極的に図書整理をしていただいている ・図書の予算(備品図書経費)は、毎年50万程度であり、その他、後援会費などを活用し購入している ・H26年3月に、図書室に関する学生アンケートを実施し、図書購入希望や図書室利用時間等の希望について対応した。しかし、個人学習机の設置等、施設改修が必要な要望については、図書室が狭隘で予算措置も困難なため、対応できていない	・図書室に個人学習のスペースの確保が必要である ・図書の購入(学生の使用頻度の高いマニュアル本等)を計画的に行う必要がある
	36 実習室は生徒数に応じたスペースが確保され、必要な備品設備が整い、十分にその機能を果たしているか。	2	・実習室が狭く、ベッド14台しか配置できず、生徒4人で1ベッドを使用している ・教育教材(モデル人形・模型等)は、医療再生基金等を有効活用し、計画的に予算要求して、順次整備している	・実習室の面積を広げ、ベッド台数を増やすことは現時点ではできないが、講義や演習の効率性の観点から、ベッド20台の整備が必要で有り、県に対して実習室の拡充に向けて要望を行う
	37 学校の抱えている課題を踏まえた職場内研修を行っているか。	3	・人権研修、不当要求研修など、職場内研修を年1回実施している なお、研修は、全員参加を原則としている ・県は、人権研修を職員一人あたり年2回以上受講するように定めており、本校受講率は100%である(他の所属より高率) ・H25年度は、PBL教育の充実のため、県外先進校視察(2回)に6名の教員を派遣した また、H26年度も新たに赴任した教員を対象にテューターの役割を学ぶため、県外視察を予定している ・H26年度は、PBL教育の更なる充実を図るために、県外から講師を招き研修会を実施する予定 ・H25年度は、新たな教育方法の学習のため、県外先進校視察に2名の教員を派遣し、実習指導技術の向上のため、ポートフォリオの活用やループリック評価の実際を学んだ	・PBL教育に関する研修会を外部講師を招き、H27.3月に実施する予定である
⑦ 教 職 員 の 育 成	38 学会または研修等に参加した成果を他の教職員に還元する仕組みがあるか。	3	・学会等に参加した後、復命書は、必ず併せて提出している ・職員会議で、学んだことを情報交換している	
	39 教員が計画的に臨床看護研修に参加できるよう支援しているか。	3	・新たに担当する科目について、実習施設での臨床看護研修を実施している H18年8月(5日間):訪問看護ステーション 教員1名 H21年8月(5日間):産婦人科医院 職員1名 H21年8月(6日間):精神科病院 職員1名 H22年8月(3日間):中央病院小児科 職員1名 H22年8月(5日間):精神科病院 職員1名 ・在宅看護論実習では、療養者宅に、実習指導者と学生が訪問する際に同伴し、最新の指導技術を学ぶことができた	
	40 教員が計画的に研究調査活動を行えるよう体制を整えているか。	3	・学会等で発表することはあるが、計画的でない ・研究指導経費(講師助言指導のための報償費)は予算措置している	・計画的な研究活動が必要である 臨床現場との共同研究もよいと思われる
	41 教員の授業を他の教員が参観、講評できる制度があるか。	3	・H26年度は、重点課題としているPBL教育について、学生の学習発表会に全職員が参加し、意見交換を実施し、次年度の課題整理を行った ・新人教員に対して、講義や演習指導案への助言を実施している	・今後は、教員各自が担当する科目の授業研究を行い、教育内容の質の向上を図る必要がある

内容	評価項目	評価結果	評価の根拠	今後の課題
⑧ 広報・ 地域活動	42 学校の存在を広く周知するため、積極的なPR活動を展開しているか。	4	<ul style="list-style-type: none"> ・オープンキャンパス、学校訪問、ホームページへの掲載、報道関係への情報提供など、積極的にPRしている ・H26年度は「鳥取地域 生活情報誌」に当校学生写真が掲載され、旧鳥取市全域に当校の存在をPRできた。 ・H25年度からクリアファイルの作成、H26年度は、新たに学生募集用ポスターを作成し、県内高等学校、実習施設等に掲示を依頼した また、ホームページ、学校案内を刷新し、若い年代にも魅力を持ってもらえるような広報となるよう工夫した さらに、H26年度は、学校PR用ポロシャツを全職員が作成し、出張や研修にも着用しており、大変好評である ・学校行事は、必ず、マスコミ関係者に資料提供を行っており、取材があった場合は、丁寧に対応している 	<ul style="list-style-type: none"> ・ホームページの継続的な更新が必要である 学生の学びが、保護者や受験生に理解してもらえるよう新しい情報を随時、更新していく必要がある
	43 ホームページは適時更新し、必要な情報を探して掲載するなど内容の充実に努めているか。	4	<ul style="list-style-type: none"> ・H26. 8月に学校ホームページのリニューアルを実施し、学校行事の報告や学生の声など、若い年代が興味を引く内容に変更した ・入試情報など、必要時にアップしている ・在学生用や卒業生用のサイトがない(授業時間の変更や履修概要の掲載等) 	<ul style="list-style-type: none"> ・ホームページの継続的な更新が必要である 学生の学びが、保護者や受験生に理解してもらえるよう新しい情報を随時、更新していく必要がある
	44 地域社会の一員として、地域への貢献・奉仕活動を行っているか。	3	<ul style="list-style-type: none"> ・本校は、「ボランティア活動」を科目として位置づけ、1年～2年生で1単位(15時間)の単位認定を実施している ボランティアの意義や目的について、1年次に講義を実施し、その後、自らが選択したボランティア活動へと参加し、積極的に地域貢献を行っている ・毎年度、鳥取空港災害救助訓練に模擬患者役として2年生が協力している ・学校として、公開講座などの取組みは実施していない 	<ul style="list-style-type: none"> ・学校の存在をPRするためには、公開講座等の取組みが必要である たとえば、小学生を対象とした看護師の職業体験(看護キッズニア)の実施 ・授業参観の実施が必要である 保護者や地域住民を対象とした授業参観の実施
	45 行事等において地域との連携・協力関係が確保されているか。	3	<ul style="list-style-type: none"> ・各関係団体等の事業に協力 H24年度:実習病院 看護研究発表会の助言者 H25年度:中学校「仕事セミナー」、小学校「性教育」 H16年度～:鳥取県実習指導者養成講習会(1回～2回／年) 講義やグループワーク指導者教員4名～5名 ・毎年、1月実施の学生研究発表会に実習施設指導者に参加していただき、助言を受けている 	<ul style="list-style-type: none"> ・今後、学校として、地域貢献できる方法の検討が必要である